

## 研究課題名「勤労者のワーク・エンゲイジメントと心身機能・ストレスコーピングとの関連」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

アイブリッジ社のアンケートシステム Freeasy の回答者として登録されており、アンケートの配信により回答が可能な方で、週 30 時間以上働いている勤労者 20～60 歳の方のうち、本調査への参加に同意し、回答した方を研究の対象としています。

### 2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：

ワーク・エンゲイジメントを媒介因子とし、その先行因子とアウトカムのプロセスモデルを作成して検証することで、ワーク・エンゲイジメントを介した推進すべきストレスコーピング戦略を明らかにすることです。

研究方法：

1. 研究デザイン  
横断研究

2. 目標対象者数  
640 名

3. 症例数設定根拠  
仮説モデルを基に自由度を決定しました。  
帰無仮説の RMSEA 0.05、対立仮説の RMSEA 0.01、自由度 120 で共分散構造分析を行う場合に必要なサンプルサイズは R より 160 と算出された。本研究では、最大で 4 つの仮説モデルを比較するため、160 名  $\times$  4 = 640 名とする。また、スクリーニング実施後に web アンケートにおいて全ての設問に回答した参加者数を収集するため、必要最小限の数で目標対象者数は達成できる。

4. 収集情報とその方法

〈主要な情報〉

- ・ ワーク・エンゲイジメント：日本語版 仕事に関する調査（UWES：The Japanese version of the Utrecht Work Engagement Scale）
- ・ ストレスコーピング：Brief COPE
- ・ 職業性ストレス：職業性ストレス簡易調査票（簡略版 23 項目）
- ・ パフォーマンス：Single-Item Presenteeism Question

〈その他の情報〉

- ・ 基本情報

年齢、性別、未婚、居住地、職業、業種、子供の有無、世帯年収、居住形態、勤続年数、交代制勤務の有無、週当たりの労働時間、組織規模、雇用形態、健康状態

#### 5. 情報の収集方法

インターネット調査会社のアイブリッジ株式会社の Freeasy を用いてアンケートの回答を収集します。

#### 6. 統計・分析方法

ストレスコーピングを独立変数、ワーク・エンゲイジメントを媒介変数、仕事のパフォーマンスをアウトカムとした一連の因果プロセスについて共分散構造分析を行い、効果的なストレスコーピング戦略を検証します。

#### 7. 予想される結果

問題焦点型のストレスコーピング戦略がワーク・エンゲイジメントを介してパフォーマンスに対して有意に正の影響を与えていると考えます。また、回避型のストレスコーピング戦略がワーク・エンゲイジメントを介してパフォーマンスに対して有意に負の影響を与えていると考えます。

研究期間：実施承認日 ～ （西暦） 2026 年 3 月 31 日

### 3. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて対象者の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも対象者に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：名古屋大学医学系研究科総合保健学専攻

予防・リハビリテーション科学

教授 内山 靖

〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20

TEL：052-719-3155 メールアドレス：[uchiyaama@met.nagoya-u.ac.jp](mailto:uchiyaama@met.nagoya-u.ac.jp)